

## 飲酒運転撲滅に関する緊急決議

交通事故の無い明るい社会の実現は、豊後大野市民の切実な願いであり、長年の課題でもある。

しかしながら、関係機関・団体の懸命の努力にもかかわらず、多くの方が交通事故の犠牲者となり、悲しみや苦しみを抱えながらの生活を余儀なくされている。

こうした状況下において、先日、幼い三人の尊い命を奪い、幸せな家庭を一瞬にして崩壊させた飲酒運転に起因した交通事故は、国民に大きな衝撃と深い悲しみをもたらし、飲酒運転の怖さをあらためて痛感させた。

このような状況下においても、全国各地で、飲酒・酒気帯び運転の事故報道は後を絶たず、県下においてもまた然りである。

県下の飲酒運転による交通事故は、平成14年の厳罰化に伴い減少傾向で推移していたが、昨年から再び増加に転じており、マスコミなどで報道される飲酒、酒気帯び運転の実態は、憂慮に堪えない情勢にある。

そのため、こうした悲劇を二度と繰り返さないよう、市民とともに飲酒運転を追放する決意を新たにすることが必要である。

飲酒運転撲滅のためには、運転者の交通安全意識の向上はもとより、家庭や職場、さらには地域が一体となって「飲酒運転は絶対にしない、させない」という社会環境を醸成していくことが重要である。

よって、本議会は、市を始め関係機関・団体との連携を強化し、市民と一体となって飲酒運転の撲滅に向けて全力を挙げて取り組むことを決意する。

上記 決議する。

平成18年9月25日

豊後大野市議会

提出者 伊藤 憲 義  
賛成者 宮成 昭 義  
小野 栄 利

# 飲酒運転撲滅

## 緊急決議

絶対ダメ!



飲酒運転撲滅のためには、運転者の交通安全意識の向上はもとより、家庭や職場、さらに、地域が一体となって「飲酒運転は絶対にしない、させない」という社会環境を醸成していくことが重要です。

市を始め関係機関・団体との連携を強化し、市民と一体となって飲酒運転の撲滅に向けて全力を挙げて取り組みます。

# 道路特定財源制度の堅持に関する意見書

提出者 佐藤  
賛成者 高山

渡邊 一 文  
宇高 克 哲  
山 豊 吉  
薄 徳 宣

本市は、豊かな農林資源や自然などの観光資源に恵まれているが、地域の発展に必要な社会資本の整備が大きく立ち遅れています。

なかでも、道路交通網の整備は、人・物の交流の広域化や生活圏の拡大などを図り、地域の活性化を促進するため、重要な緊急な課題です。

地方の地域振興・発展に影響が生じることのないよう道路整備に必要な財源の確保を政府に強く要望するものです。



県道三重新殿線バイパスの早期完成を求める決議

県道三重新殿線バイパスは、現在整備中の中九州横断道路（地域高規格道路）と国道326号を連結する道路であり、県南内陸部における南北交通の幹線道路で地域の発展を期待する路線として計画されたものである。

本路線の整備は、東九州自動車道（高規格幹線道路）及び中九州横断道路と連結して、高い交通機能を有した「循環型道路ネットワーク」の形成を目指すものと認識されている。

市内の国道は、近年、生活圏の拡大や人・物の交流の広域化等により、著しく交通量が増加し、市街地やその周辺部において、交通渋滞や交通事故等が多発しており、市民生活に密着したアクセス道路の完成は、市民の安全・安心を確保するためにも、極めて重要である。

現在、平成19年度の三重町赤嶺区供用開始に向け、整備中であるが、大部分が未着手となっている。

よって、早期完成のために、未着工区間を三重町内山の国道326号から三重町赤嶺のバイパス区間及び三重町大原から千歳町前田のバイパス区間に分割し、工区毎の予算措置並びに国の直轄事業としての位置付けをしていただくことを強く要望する。

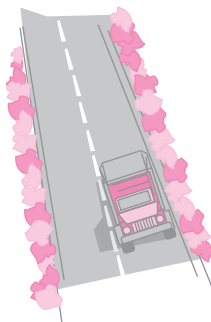
なお、本市議会は、市の産業経済の発展・地域間交流の促進・生活環境の保全と改善を図るため、市当局をはじめ、関係する団体や市民と広く連携を図り、一丸となって、県道三重新殿線バイパスの早期着工・完成を強く求める活動を展開する。

以上、決議する。

平成18年9月25日

豊後大野市議会

県道三重新殿線バイパスの早期完成を求める決議



提出者 首藤 正光  
賛成者 宇薄 克哲  
清田 満作

本路線は、現在整備中の中九州横断道路（地域高規格道路）と国道326号を連結する道路であり、県南内陸部における南北交通の幹線道路で、地域の発展を期待する路線として計画されたものです。

市の産業・経済の発展、地域間交流の促進、生活環境の保全と改善を図るため、市当局を始め、関係する団体や市民と広く連携を図り、一丸となって、県道三重新殿線バイパスの早期着工・完成を強く求める活動を展開します。

視察研修 REPORT

議会の活性化を学ぶ 議会運営委員会

今回、2つの自治体の視察研修をしました。

まず、愛媛県東温市は、2町での合併で人口は3万5千人、市庁舎は近代的な6階建てで、1階ロビーでは総合案内係が笑顔で応対をしています。

委員会の任期は1年で、議員の任期中4つの委員会に所属することもできます。政務調査費が導入されており、議員の調査活動費として使われています。この研修を生かし、議会運営のさらなる充実に取り組みます。

議会活性化は、市民へ議会情報の提供（本議会生中継、市のホームページに会議録掲載、議会だよりの発行など）に努めています。

政務調査費を導入し、地域の実情把握や調査活動を十分行えるようにしています。

次に、広島県三原市です。1市3町での合併で人口は、10万6千人です。

議会運営は、常任委員会の同日開催を避け、すべての委員会への傍聴を可能にしています。



▲東温市議会との意見交換会